

競技レベルの違いとコーチング・メンタルモデル

—X 県内高校サッカー指導者の事例研究—

コーチング科学研究領域

5009A024-5 加藤 篤

研究指導教員：堀野 博幸 准教授

【序論】

日本におけるコーチング・メンタルモデルの研究として、北村ら（2004, 2005）の研究がある。

2004 年の研究において北村は、ブラジルのブラジル・プロフェッショナル・サッカー指導者を対象にインタビュー調査を行い、コーチング・メンタルモデルとして「熟達化」，「意識化」，及び「支援」の 3 つの大カテゴリーを提示している。

また、2005 年の研究において北村らは、エキスパート高等学校サッカー指導者を対象にインタビュー調査を行い、コーチング・メンタルモデルとして「熟達化」，「意識化」，及び「支援」の 3 つの大カテゴリーを提示している。

北村ら（2004, 2005）の論文で、日本の指導者とブラジルの指導者は、同じ大カテゴリーを持ちながら指導していると示されたのにも関わらず、日本とブラジルのサッカーの競技レベルは異なる。しかしこの点に関する検討は不十分である。

また、コーチング・メンタルモデルの研究は、全国レベルの大会や国際レベルの大会で優れた競技成績を収めている指導者を対象にしたものが多く、都道府県レベルや地区レベルの大会で優れた成績を収めているチームの指導者を対象にし

た研究は見当たらない。

そこで本研究では県レベルの大会で上位の成績を収めている高等学校サッカー部の指導者を対象に、指導者がどのようなコーチング・メンタルモデルを持って指導にあたっているかを明らかにすることを第 1 の目的とした。また、どのような考えに共通性が見られ、どのような考えに特異性が見られ、それが競技レベルとどう関係しているかを検討し、明らかにすることを第 2 の目的とした。

【方法】

（データ収集）

半構造的自由回答インタビュー

（対象者）

X 県内の高等学校サッカー部で監督として選手を指導している 9 名の指導者を対象とした。そのうち 6 名のインタビューに成功した。

（データ分析）

分析は Côté et al.(1993)による質的データ分析法に基づき分析された。分析は下記の 3 つの段階を経て行われた。

(1) 標題作成

(2) サブカテゴリー作成

(3) カテゴリー概念化

(信頼性の検証)

信頼性の検証は、Culver et al.(2003)が推奨する方法を基に行った。具体的には、下記の3つによって信頼性を確保した。

- (1) 研究方法の明示
- (2) 半構造化インタビューによる質問の均質化
- (3) 共同研究者との点検

【結果】

それぞれの対象者のメンタルモデルを構築した結果以下のようなメンタルモデルが6人分構築された。

対象者に共通点する部分として、「取り組む姿勢」、「選手支援」、及び「人間教育」の大カテゴリーが多く見られ、全ての指導者が「人間教育」を一番大切に考えていることが明らかとなった。

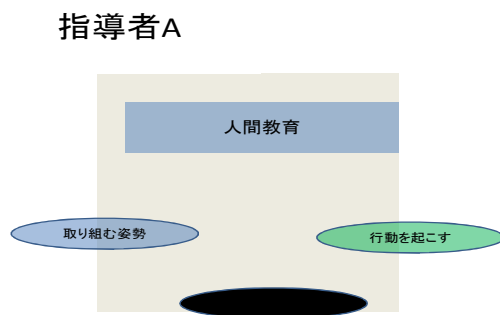


図1 県大会上位レベル指導者A
コーチング・メンタルモデル

【考察】

結果から、県大会上位レベル指導者6名のコーチング・メンタルモデルが構築

され、対象者は、その中でも特に「人間教育」を一番重要視していることが明らかとなった。

また、競技レベルとコーチング・メンタルモデルの関係について、共通するコーチング・メンタルモデルを持ちながら指導しているにも関わらず、競技レベルに違いがあることから、指導者の考えの特異性と、それをどれだけ徹底できるかが、競技レベルに影響を与えている可能性が推察された。しかし、この点に関して本研究では、あくまで推察にとどまり、詳細は明らかにならなかった。そのため、今後の研究において、さらなる事例研究が進み、競技レベルとコーチング・メンタルモデルの関係がより詳細なものとなることを期待する。

【結論】

本研究から第1の目的である、県大会上位レベル指導者のコーチング・メンタルモデルが明らかとなった。また、県大会上位レベル指導者が「人間教育」を最も重要視していることが明らかとなった。

第2の目的に関しては、「取り組む姿勢」、「選手支援」、「人間教育」の大カテゴリーにおいて、共通性が見られた。特異性の部分に関しては、それが競技成績に影響を与えている可能性が示唆された。